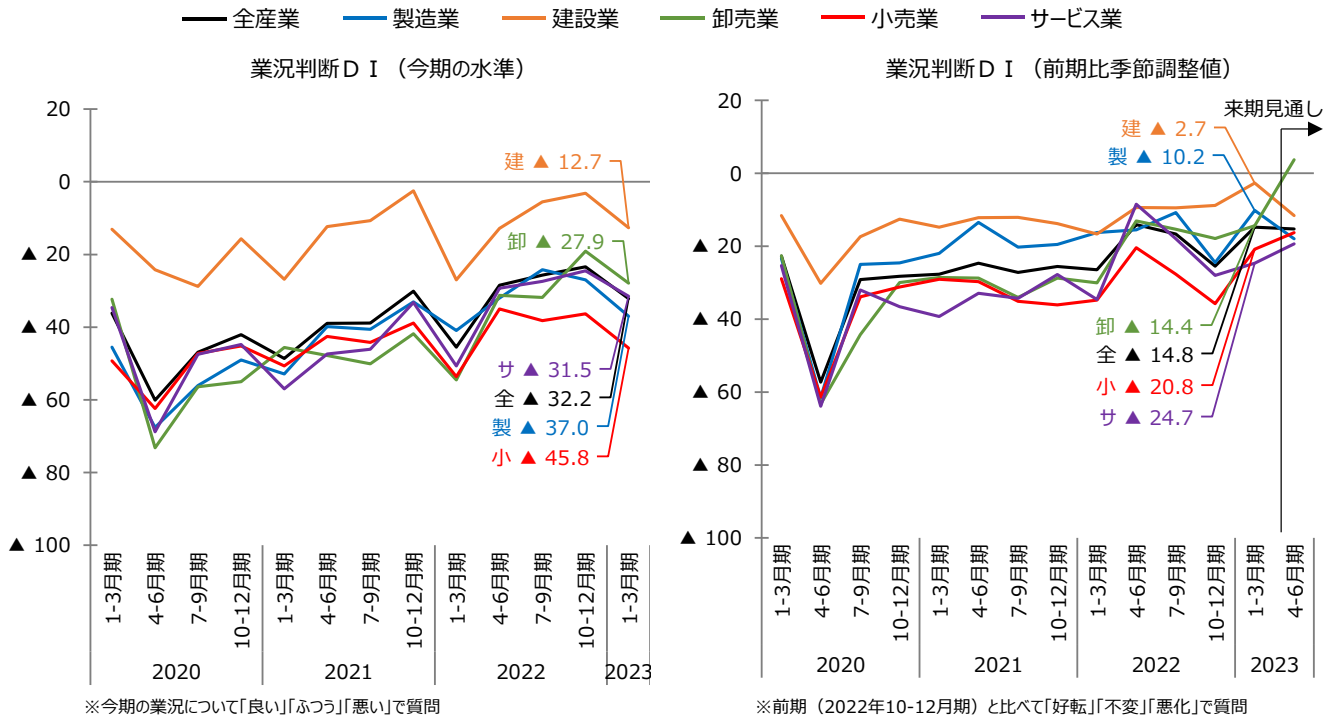


第171回 中小企業景況調査（2023年1-3月期） 北海道



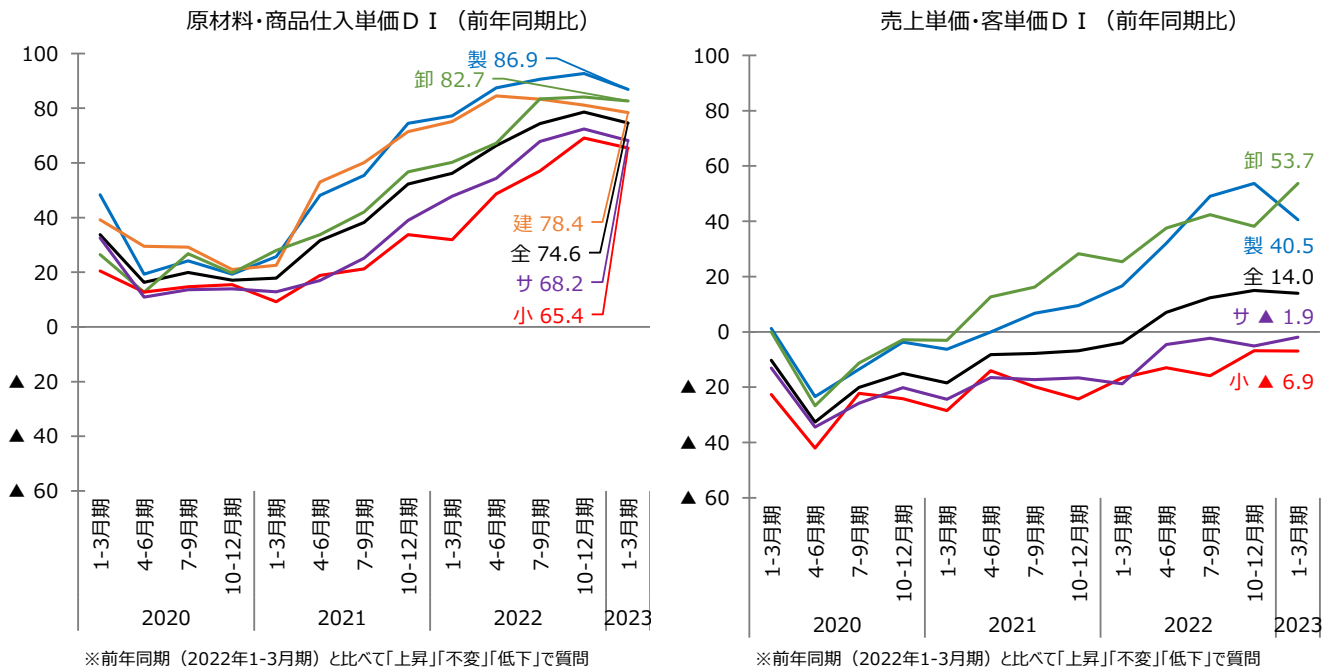
1. 業況感

北海道地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2022年10-12月期）より8.8ポイント減の▲32.2と4期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より4.0ポイント減の74.6と9期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より1.0ポイント減の14.0と8期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業、サービス業で上昇し、製造業、小売業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2023年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,840 有効回答企業数：17,980 有効回答率：95.4% うち、北海道：728企業

第171回 中小企業景況調査（2023年1-3月期） 北海道

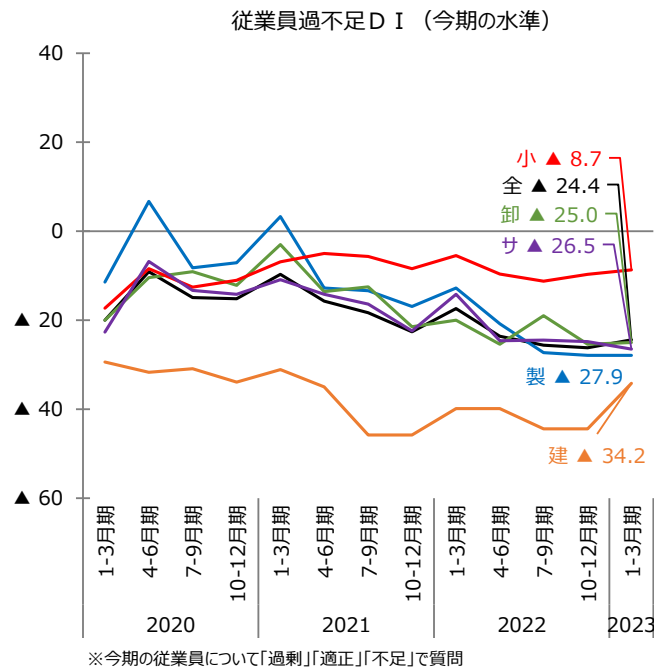
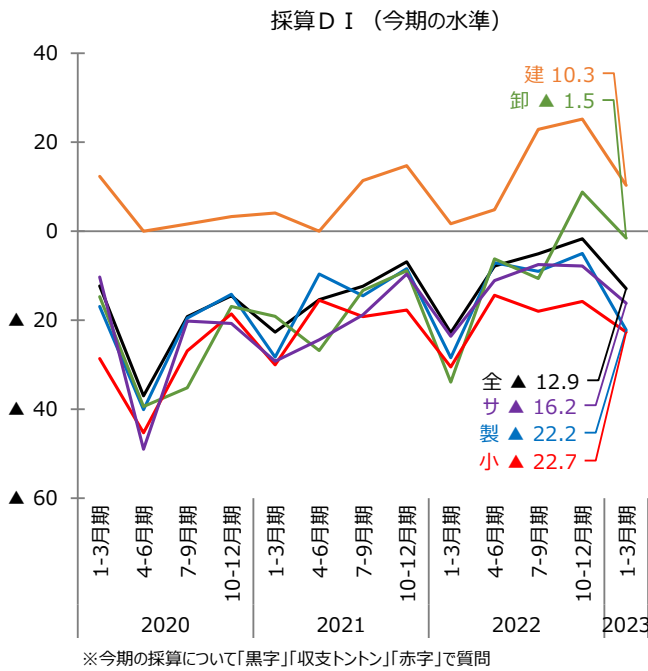


3. 採算

採算DIは、全産業で前期より11.2ポイント減の▲12.9と4期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.8ポイント増の▲24.4と4期ぶりに上昇。産業別では、建設業、小売業、卸売業で上昇、製造業で横ばい、サービス業で低下した。



4. 北海道の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	電気料金の値上げ、原料、資材の高騰でコストアップがあるが、コロナ緩和で催事の売上げも向上してきている。今年は小売りで、地域のお客様の開拓に重点を置き、クオリティの高い商品開発による提供をして売上を向上させる。	製造業 豆腐・油揚げ製造業
	受注は順調であるが、建物などの完成が遅れており、当社の納入も遅れ、回収に影響がある。当社の強みは、技能士を抱え込んでおり、全般的に技能士不足の中にあっても順調な仕事ができている。	建設業 冷暖房設備工事事業
	円安と素材高騰による仕入単価の上昇があり、販売先への価格転嫁を行なっているが、十分できていない。来期、物価高騰並に給与を上げたいと思っているが、どの程度上げるべきか、頭を痛めている。	卸売業 靴・履物卸売業
	相次ぐ商品の値上げが続き、生活必需品以外の消費を抑える傾向が伺える。また、主要な客層が高齢なため、コロナで外出を控える生活に慣れて、感染が収まってきても外出しない人が増えている。	小売業 かばん・袋物小売業
見通し	原材料や光熱費がどんどん上がり、販売価格の値上げが難しい。客単価を上げるためのメニュー開発に苦労している。	サービス業 食堂、レストラン（専門料理店を除く）
	昨年の原料事情がひど過ぎて、今年こそはと思っていたが、国産鶏を中心に、引き続き品薄、価格高騰が続いている。ただ、道外の新規顧客獲得の成功やコロナウイルスの5類への引き下げにより、来期は売上増加の期待ができる。	製造業 水産缶詰・瓶詰製造業
	昨年1月頃より計画していた案件が、10月頃までに竣工した為、表面上は増益増収ながらも、他案件が延期となり、3月以降の民需の目途が立ちません。来期は仕事量が減少し、収益性も悪化、厳しい状況が予想されます。	建設業 一般土木建築工事事業
	コロナが落ち着きを見せる中、値上がりする価格が消費者に徐々に受け入れられ、明るい兆しが見えたかと思いきや、予想以上に電気料金の値上げが響く。消費者の節約志向が高まれば、これ以上の消費の拡大は難しい。	小売業 各種食料品小売業
	まだコロナの影響が多少あるが、今後落ち着き、人流が増えることを期待している。	サービス業 スポーツ・娯楽用品賃貸業
原価上昇分を直ちに売上に反映できずにいる。このため、将来へ向けての投資が十分にできない。	サービス業 その他の土木建築サービス業	

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

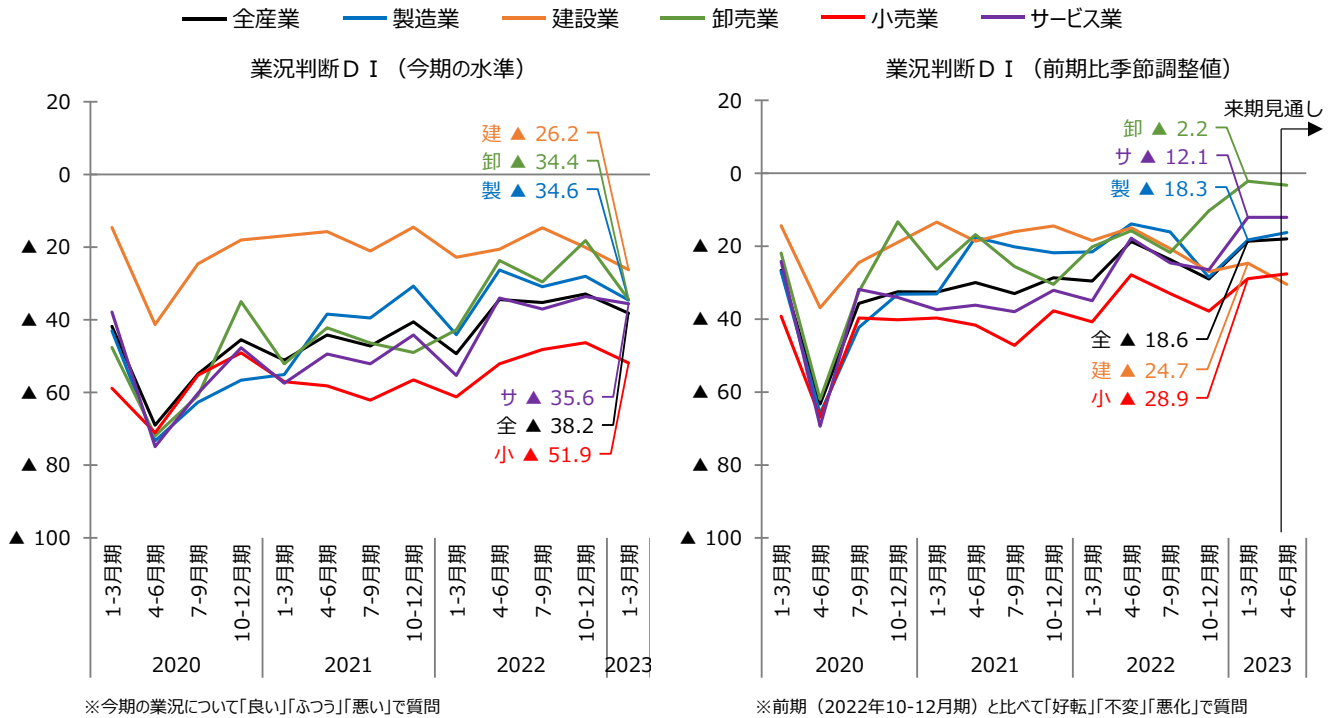
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第171回 中小企業景況調査（2023年1-3月期） 東北



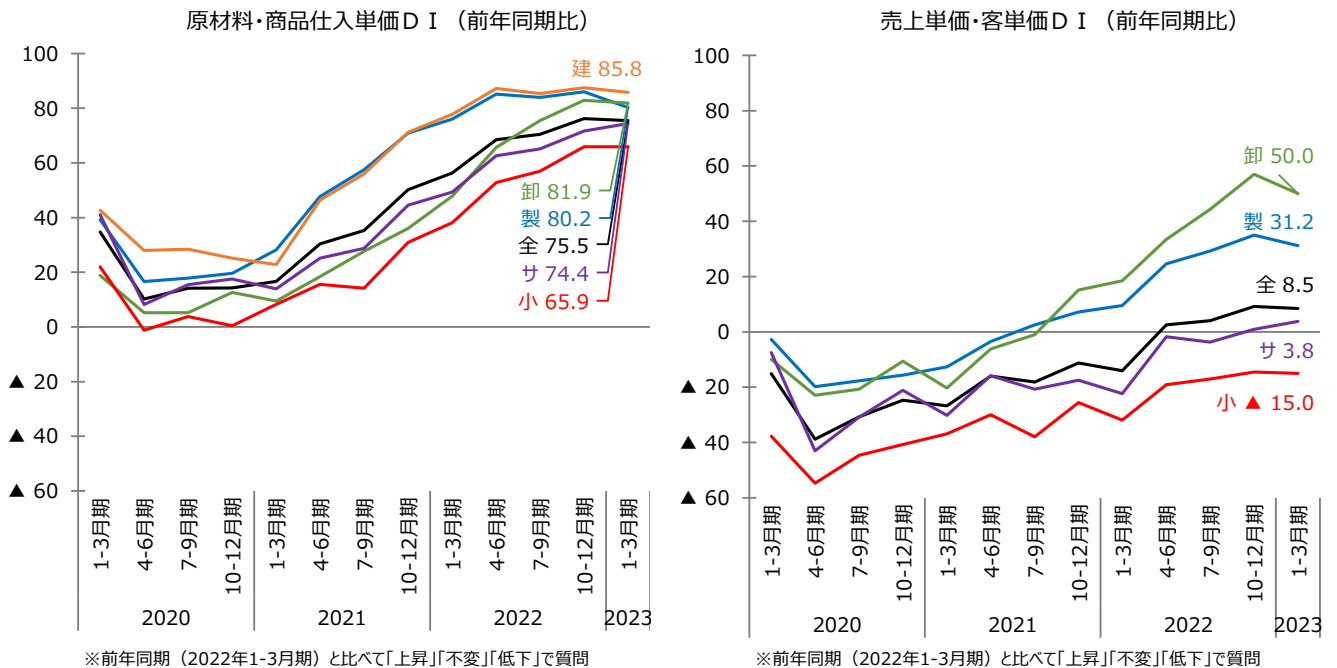
1. 業況感

東北地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2022年10-12月期）より5.3ポイント減の▲38.2と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.7ポイント減の75.5と11期ぶりに低下した。産業別にみると、サービス業で上昇、小売業で横ばい、製造業、建設業、卸売業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.7ポイント減の8.5と4期ぶりに低下した。産業別にみると、サービス業で上昇、卸売業、製造業、小売業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2023年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,840 有効回答企業数：17,980 有効回答率：95.4% うち、東北：1,856企業

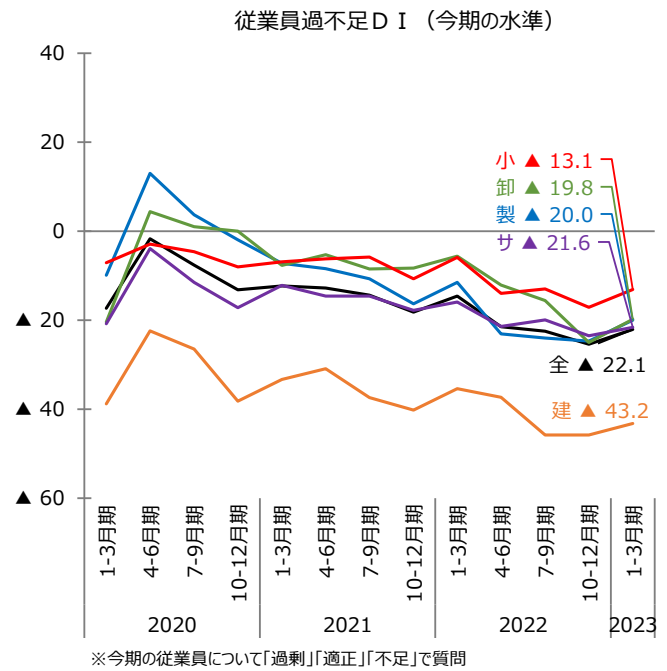
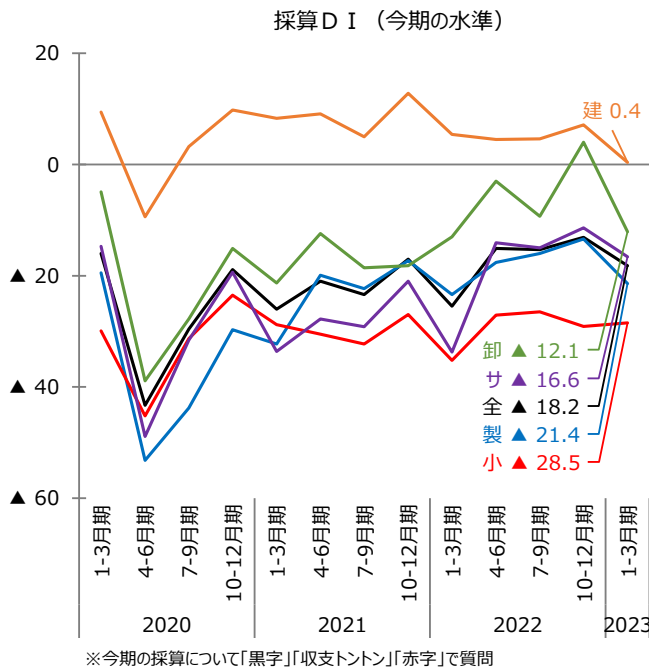
第171回 中小企業景況調査（2023年1-3月期） 東北

3. 採算

採算DIは、全産業で前期より5.1ポイント減の▲18.2と2期ぶりに低下した。産業別にみると、小売業で上昇し、卸売業、製造業、建設業、サービス業で低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より3.3ポイント増の▲22.1と4期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。



4. 東北の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	需要の停滞が見られる中で、燃料費、電気代の高騰が明確になり、生産コストの転嫁が、困難な状況にある。人件費は上昇しているが人材の確保が非常に苦戦している。中長期的に、操業難に陥る可能性が高くなっている。	製造業 一般製材業
	管材・器具等の値上がりが続いているし、納期もかかっている。従業員の確保も難しい現状である。	建設業 給排水・衛生設備工事業
	経費が増大しているものの、販売単価の上昇に消費が追いついていない。採算が悪化する中、賃上げが求められる。企業の廃業・倒産が増加しているように感じる。	卸売業 靴・履物卸売業
	仕入価格、原材料、光熱費の高騰が続いているので、販売価格をまた上げることはできない。客の購買力も低下しているので、影響が大きい。	小売業 菓子小売業（製造小売）
	今年に入り荷量の落ち込みが見られる。燃料価格の高止まりもあり、利益が減少気味。コロナ明けの経済の動きに期待したい。	サービス業 一般貨物自動車運送業（特別積合せ貨物運送業を除く）
見通し	コロナ禍の収束をうけて、引き合いが活発化しており、4月からの生産に目途が立った。一方で、原料及び加工賃、電気料金の値上げ等が、売り値に100%転嫁できないため、採算面では好転していない。	製造業 絹・人絹織物業
	見積等の引き合いは、ほぼ変わりなくあるが、年度末の時期に入っているため、来年度に向けての予算取りの傾向が多く、すぐに受注、完工といった流れにはならないため、先が見通せない。	建設業 一般電気工事業
	光熱費その他で、経費支出増傾向にある。今後は、仕入単価や人件費の増加も見込まれ、業況は厳しいものになると見込んでいる。	卸売業 他に分類されないその他の卸売業
	コロナと物価高騰の影響により、業況は悪いが、3月のマスク自由化と、5月の5類になることにより、化粧品需要が高まり、業況が好転して行くことを期待したい。	小売業 化粧品小売業
	ポストコロナへの対応も課題となるが、これに加えて、諸物価高騰に起因する消費マインドの冷え込みが続くものと予想され、厳しい経営環境下にある。	サービス業 旅館、ホテル

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

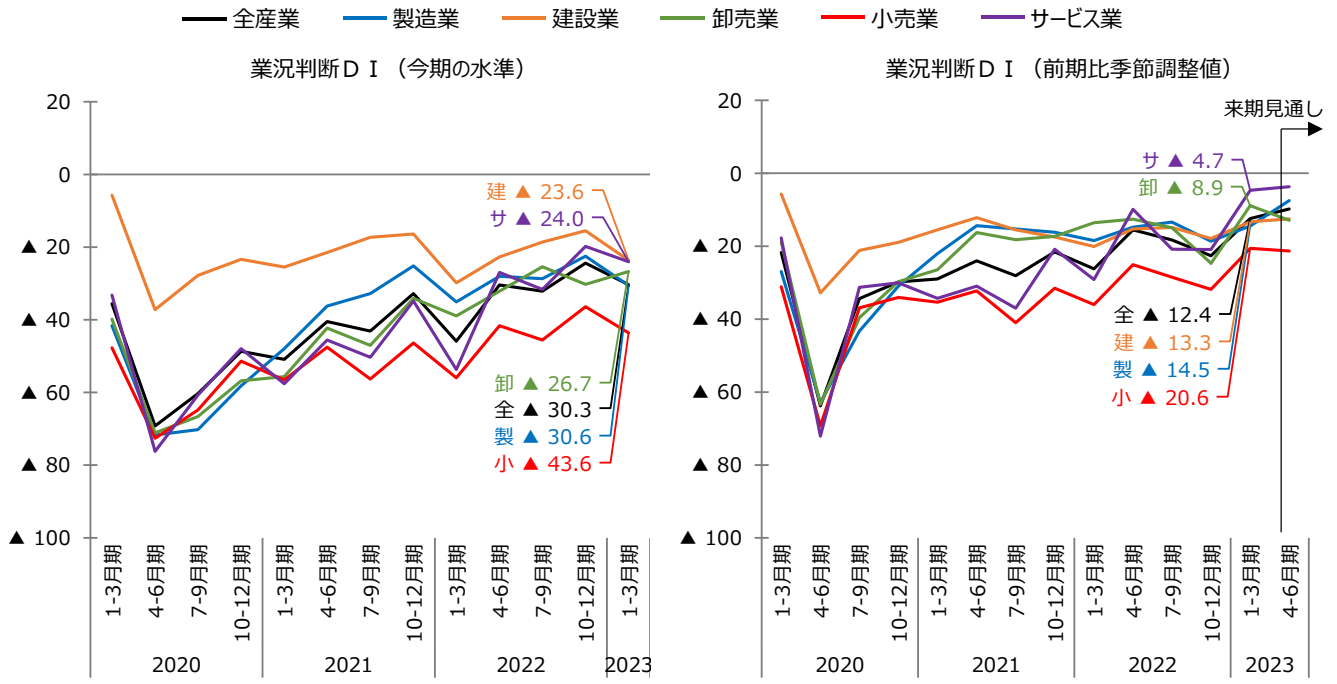
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第171回 中小企業景況調査（2023年1-3月期） 関東



1. 業況感

関東地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2022年10-12月期）より5.9ポイント減の▲30.3と2期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、製造業、建設業、小売業、サービス業で低下した。

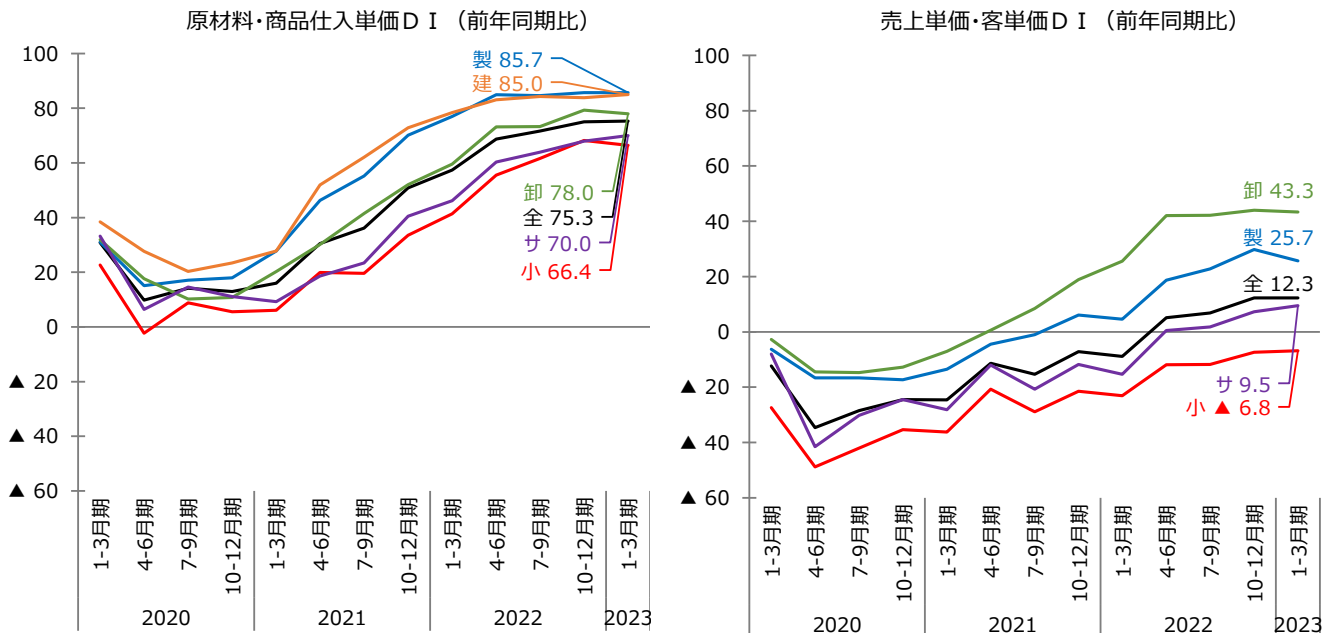


※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問

※前期（2022年10-12月期）と比べて「好転」「不变」「悪化」で質問

2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.3ポイント増の75.3と9期連続して上昇した。産業別にみると、サービス業、建設業で上昇し、製造業で横ばい、小売業、卸売業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.0ポイントの12.3と横ばいとなった。産業別にみると、サービス業、小売業で上昇し、製造業、卸売業で低下した。



※前年同期（2022年1-3月期）と比べて「上昇」「不变」「低下」で質問

※前年同期（2022年1-3月期）と比べて「上昇」「不变」「低下」で質問

<調査概要> 調査時点は2023年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

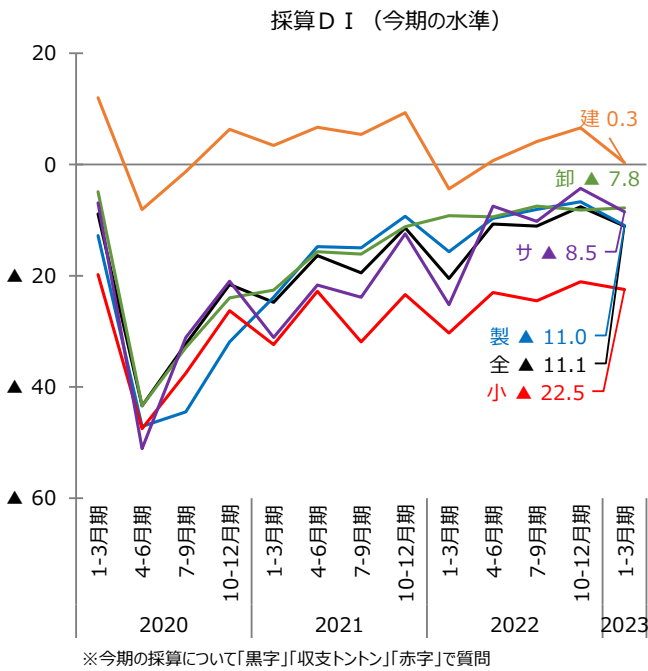
今期の調査対象企業数：18,840 有効回答企業数：17,980 有効回答率：95.4% うち、関東：4,889企業

第171回 中小企業景況調査（2023年1-3月期） 関東



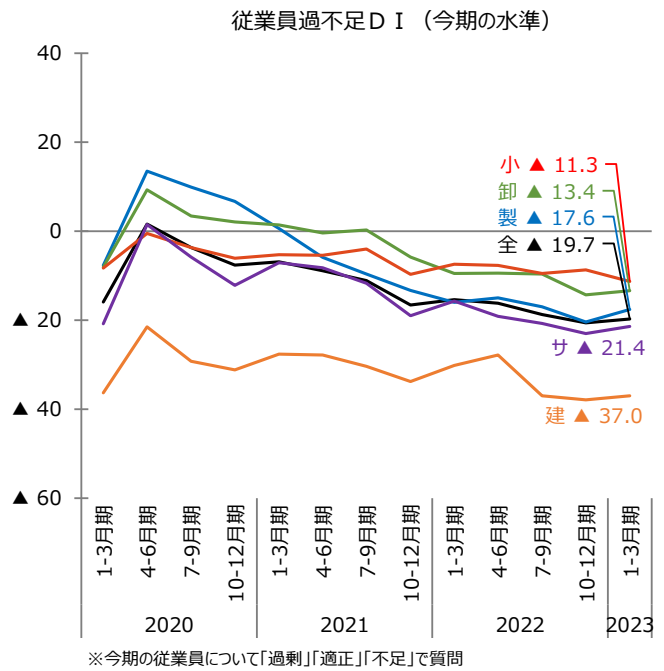
3. 採算

採算DIは、全産業で前期より3.5ポイント減の▲11.1と2期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、建設業、製造業、サービス業、小売業で低下した。



4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.9ポイント増の▲19.7と4期ぶりに上昇した。産業別にみると、製造業、サービス業、卸売業、建設業で上昇、小売業で低下した。



4. 関東の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	足元売上高は、コロナ禍以前の水準まで回復しつつあり、目先の見通しも、量的には改善基調と判断している。但し、採算面においては、原材料・光熱費及び今後の人件費等、諸コストアップが大きな課題として残る。	製造業 <small>金属工作機械用・金属加工機械用部分品・附属品製造業</small>
	社員の給与増が、売上に反映できていない。要するに、利益の圧縮で凌いでいる状況である。来期は少しずつ労務費の上昇を考えて、適正な価格で受注したい。材料もいまだ遅れているものもある。	建設業 <small>一般電気工事業</small>
	仕入単価の上昇分を全て転嫁している訳ではないので、粗利率の低下が発生している。物不足が継続しているので、納入先に迷惑をかけている。建築工事の遅れ、納入単価の上昇もあり、業界として困惑している。	卸売業 <small>電気機械器具卸売業（家庭用電気機械器具を除く）</small>
	仕入単価の上昇が止まらないことに加え、人件費も上げないと人材不足になるため、販売価格を上げないといけないが、客数減少が怖いので、十分な値上げができない。利益が少なくなってしまう。	小売業 <small>菓子小売業（製造小売）</small>
	コロナ制限が無くなり、今年に入り客足に変化が見られ、少しずつ売上が上がっています。特に土日に家族連れが増えて来ました。燃料代や電気代その他値上げのマイナス材料はありますが、前向きに考えて行こうと思います。	サービス業 <small>一般公衆浴場業</small>
見通し	前期より引き続き、半導体やEV関連の引き合いは増加している。特に、検査装置の需要は顕著であり、今後もしばらく需要が続くと予想している。	製造業 <small>他に分類されない非鉄金属製造業</small>
	コロナは落ち着きつつあるが、今度は物価上昇による原材料の価格高騰など、いい要素があまり感じられない。来年度の予測をすることは難しく、見通しが立たない。	建設業 <small>一般電気工事業</small>
	当面は、仕入単価の上昇を販売単価に転嫁しきれないことや、国内景気の先行が見通し難いこと、電気料金や燃料費の高騰もあり、収益力悪化傾向となる見通し。	卸売業 <small>他に分類されないその他の卸売業</small>
	コロナ禍のマスクによるメイク需要の低下や客層の高齢化に伴い、化粧品離れ等、客数の減少、売上額の減少が続いている。今期はマスクの自由化が進み、化粧品に対する気持ちが高まることを期待したい。	小売業 <small>化粧品小売業</small>
	物価高騰による、仕入単価上昇や高熱費の上昇による経費負担により厳しい状況。しかしながら、コロナ感染症が5類に引き下げられる為、今後、人流の動きが活発化に向く期待がある。	サービス業 <small>旅館、ホテル</small>

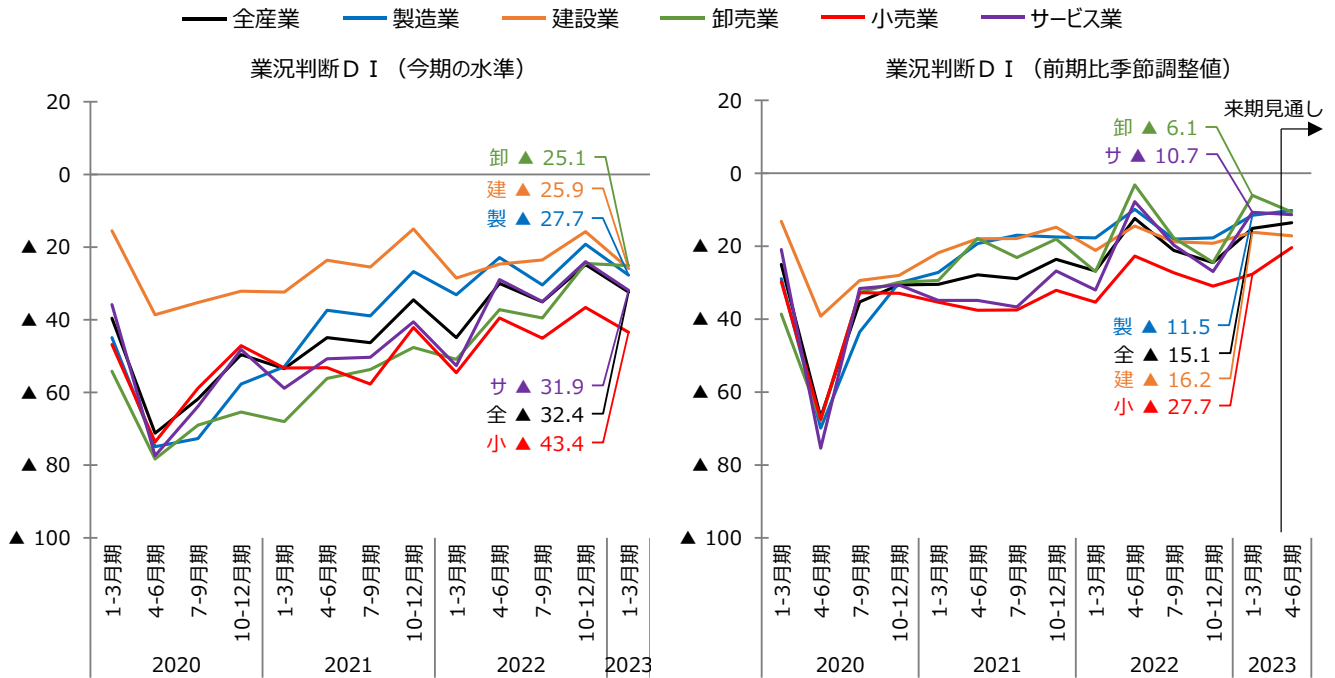
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第171回 中小企業景況調査（2023年1-3月期） 中部

1. 業況感

中部地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2022年10-12月期）より7.6ポイント減の▲32.4と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。

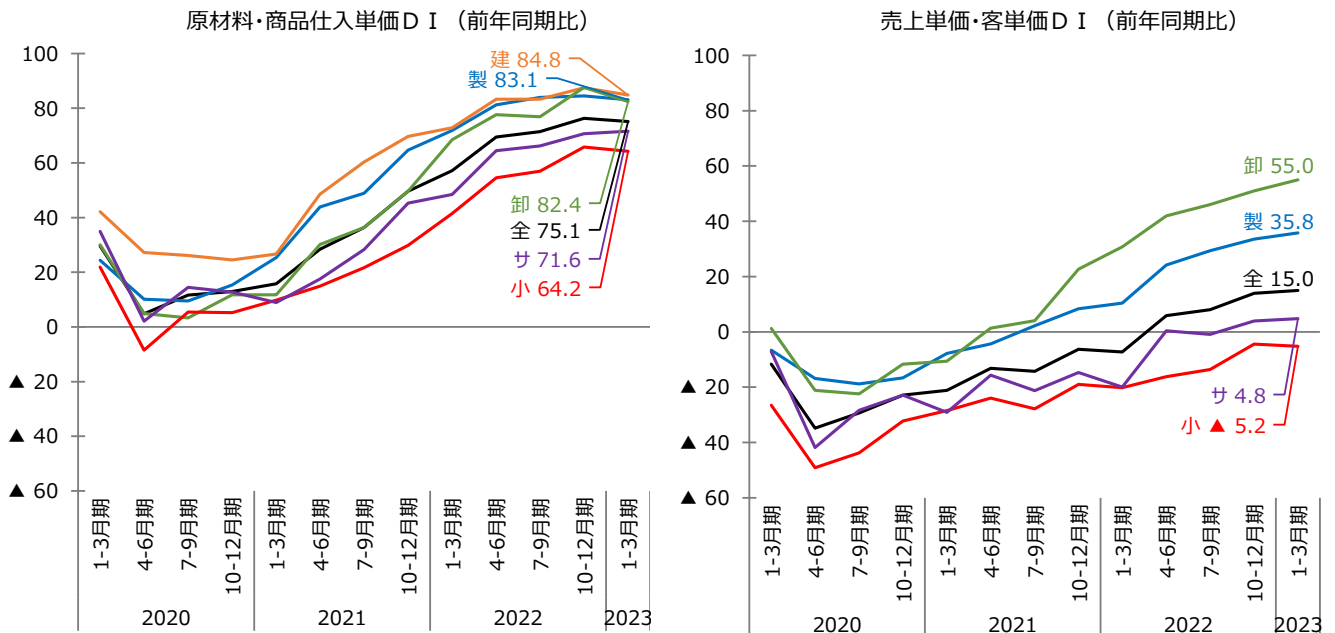


※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問

※前期（2022年10-12月期）と比べて「好転」「不変」「悪化」で質問

2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.2ポイント減の75.1と11期ぶりに低下した。産業別にみると、サービス業で上昇し、卸売業、建設業、小売業、製造業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より1.0ポイント増の15.0と4期連続して上昇した。産業別にみると、卸売業、製造業、サービス業で上昇し、小売業で低下した。



※前年同期（2022年1-3月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

※前年同期（2022年1-3月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

<調査概要> 調査時点は2023年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

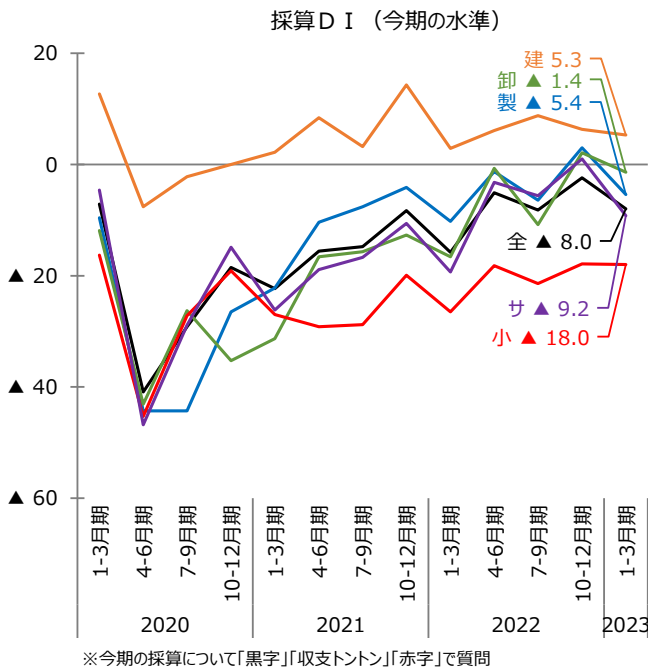
今期の調査対象企業数：18,840 有効回答企業数：17,980 有効回答率：95.4% うち、中部：2,271企業

第171回 中小企業景況調査（2023年1-3月期） 中部



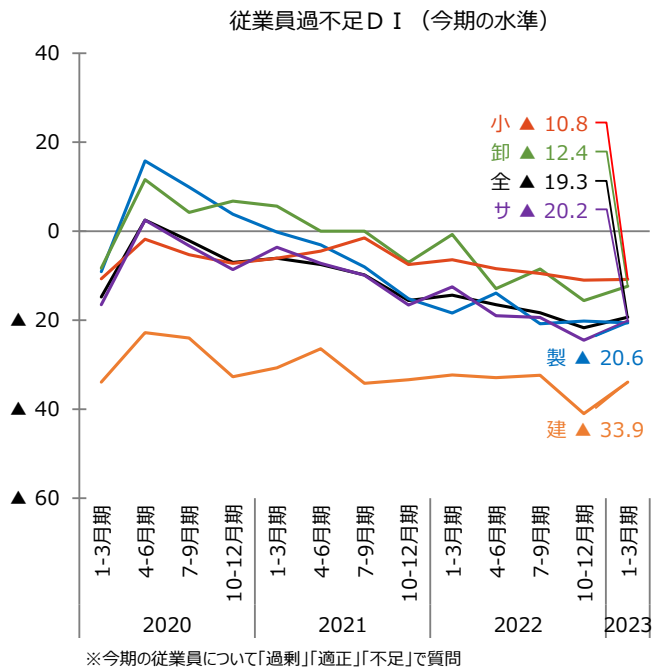
3. 採算

採算DIは、全産業で前期より5.6ポイント減の▲8.0と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。



4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より2.4ポイント増の▲19.3と4期ぶりに上昇した。産業別にみると、建設業、サービス業、卸売業、小売業で上昇、製造業で低下した。



4. 中部の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	人手不足に直面し、思うように生産できない。価格転嫁が後手後手に回り、資金繰りが厳しい。人手不足による生産減少、電気代高騰、資金繰りの悪化と悪循環に陥っている現状である。	製造業 鉄鋼・鋳造業（鋳鉄管、可鍛鋳鉄を除く）
	材料単価や原油高などの影響が大きく、資金繰りが大変厳しい状況。売上を向上させる取組が必要。	建設業 一般電気工事業
	食料品の値上げラッシュの為、陶器を買うのを控えているという声が多数。売上の減少を値上げした分でカバー。しかしその他の経費が上昇の為、利益が上がらない。	卸売業 陶磁器・ガラス器卸売業
	仕入や材料費の価格が日に日に上がっており、工事を伴うものに関しては、見積りをする段階と材料を揃える段階で、価格が大きく変わってしまう。そのために利益が少なくなってしまうことが増えた。	小売業 電気機械器具小売業（中古品を除く）
	12月からインバウンドのお客が多く、半年先の早期予約も多く、安心感がある。一方、仕入単価の上昇や、4月からの電気料金の値上げは、採算に大きく影響する。客単価も上げるべきか考え中。	サービス業 旅館、ホテル
見通し	今期は原材料価格の上昇が顕著で、来期も既に各仕入先から値上げを要求されていて、原価アップが避けられない環境の下、売価への転嫁が困難な状況にある。	製造業 生コンクリート製造業
	今のところ、仕事量も変わらず引き合い（受注）もありますが、今後は受注価格の低下（相見積り）など厳しい状況になってくると思います。いわゆる、仕事はあっても儲からないといった状況に移っていくことが懸念されます。	建設業 塗装工事業（道路標示・区画線工事業を除く）
	一般消費は、停滞感が強く、価格高騰の影響を強く感じる。コロナの影響は、ほぼ無くなってきた。	卸売業 陶磁器・ガラス器卸売業
	今年も値上げの話が多く、すぐに価格転換できておらず、採算が悪くなりそうです。今後、お客様にご理解いただくようにしたいと思っています。社員の給料も上げていきたいので、粗利益を確保していきます。	小売業 建築材料小売業
	材料費と光熱費の料金高騰により、価格を上げざるを得なくなった。また、鳥インフルによる卵不足で今後の営業に不安を感じる。	サービス業 そば・うどん店

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

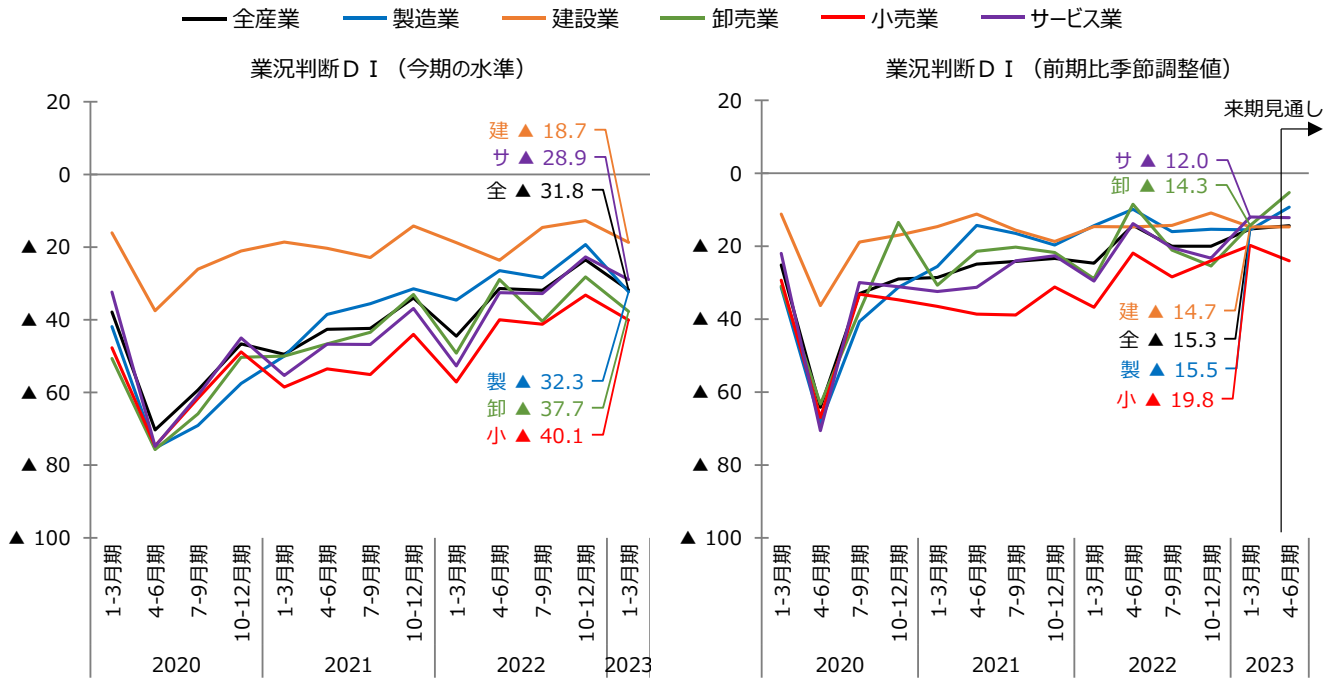
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第171回 中小企業景況調査（2023年1-3月期） 近畿



1. 業況感

近畿地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2022年10-12月期）より8.3ポイント減の▲31.8と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。

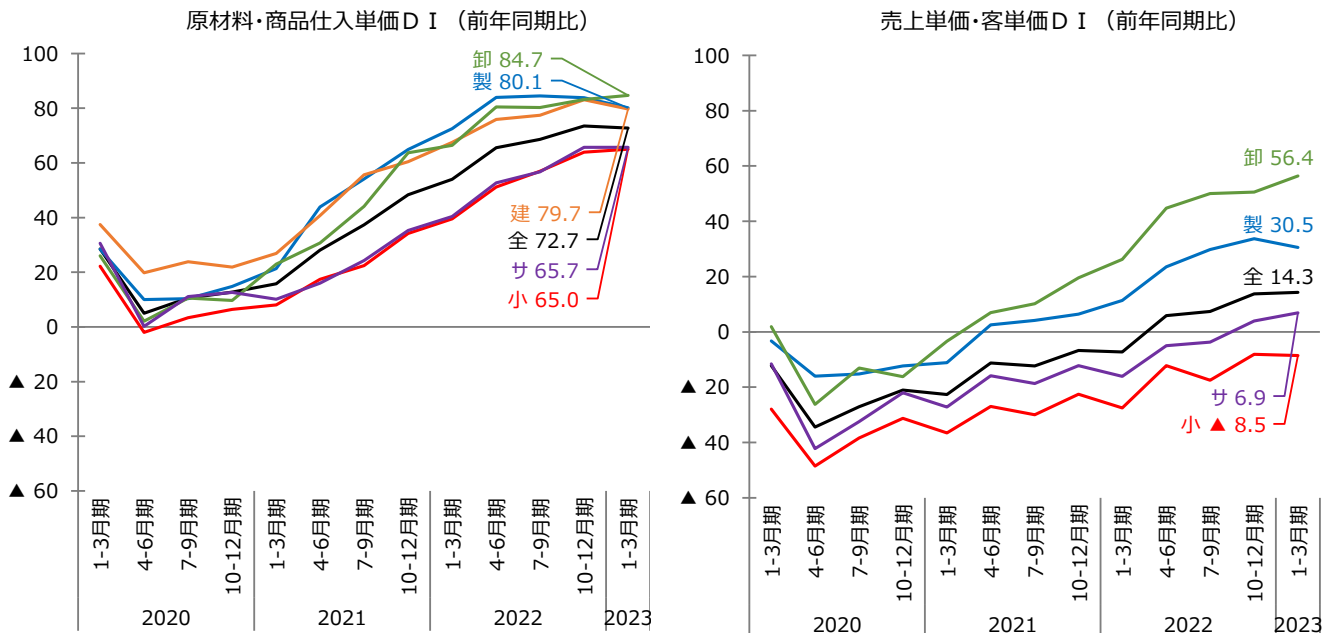


※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問

※前期（2022年10-12月期）と比べて、「好転」「不変」「悪化」で質問

2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.8ポイント減の72.7と11期ぶりに低下。産業別にみると、卸売業、小売業で上昇し、サービス業で横ばい、製造業、建設業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.5ポイント増の14.3と4期連続して上昇。産業別にみると、卸売業、サービス業で上昇し、製造業、小売業で低下した。



※前年同期（2022年1-3月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

※前年同期（2022年1-3月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

<調査概要> 調査時点は2023年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,840 有効回答企業数：17,980 有効回答率：95.4% うち、近畿：2,528企業

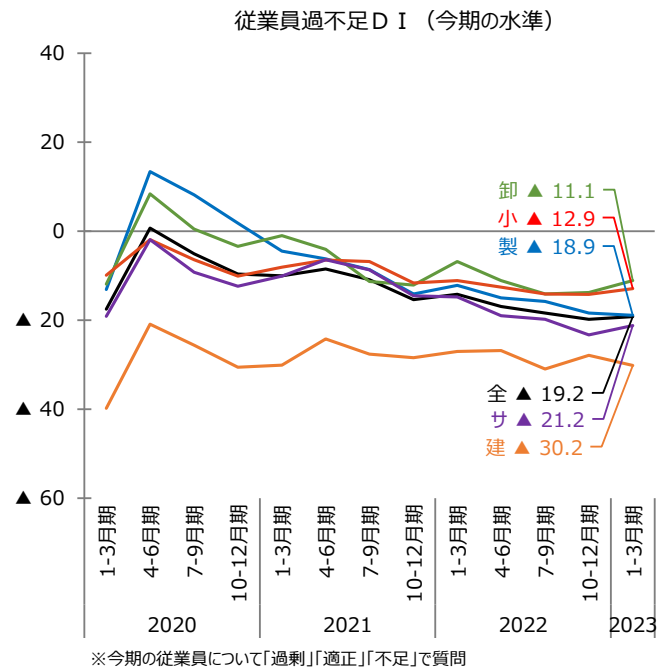
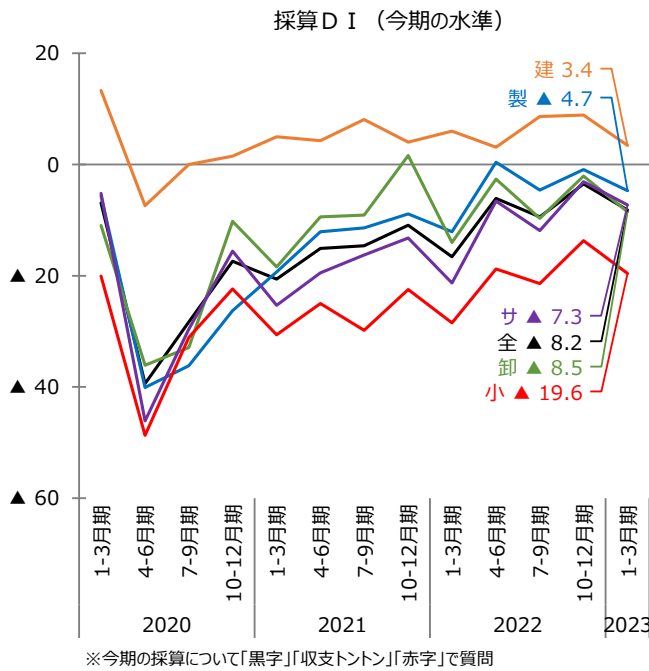
第171回 中小企業景況調査（2023年1-3月期） 近畿

3. 採算

採算DIは、全産業で前期より4.7ポイント減の▲8.2と2期ぶりに低下した。産業別にみると5産業すべてで低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.6ポイント増の▲19.2と4期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、サービス業、小売業で上昇、建設業、製造業で低下した。



4. 近畿の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	引き合いは多く、受注に関しては問題ないものの、人材確保難と原材料仕入れ価格の上昇により、人件費上昇、利益率の低下が否めない。	製造業 <small>その他の産業用電気機械器具製造業（車両用、船舶用を含む）</small>
	電子機器や照明器具が入手困難な物が多く、工期に合わせるため代替の機器を入手したり、施工方法を変更したりするため、原価率が上昇している。人材難は当社、得意先、共に深刻で、受注機会の喪失に繋がっている。	建設業 一般電気工事業
	為替相場が、ある程度落ち着きを取り戻し、商品販売価格への転嫁が一定されたことで、業況は、平年のような落ち着きを取り戻した。客先の業況は良くはない様子であるが、価格上昇を背景に、設備投資意欲は失われている。	卸売業 その他の産業機械器具卸売業
	原材料、包装資材、光熱費の高騰により、利益が圧迫されています。商品単価の値段も上げていますが、お客様の購入数も低下気味ですので、コストダウンを図り、販売戦略を考えなければならないと感じています。	小売業 菓子小売業（製造小売）
	新型コロナの感染状況が落ち着き、社会活動が再開されつつある。客数はコロナ前の水準に戻りつつあるが、光熱費の高騰が経営を圧迫している。ようやく客足が戻りつつある中で料金転嫁・値上げには踏み切れない状況。	サービス業 理容業
見通し	昨年末より続く、原材料価格の高止まりや、電気代や燃料費の相次ぐ値上げにより、経費の負担が増している。今後は、インバウンドや観光地への集客には期待できる為、来期の巻き返しを図りたいと思う。	製造業 豆腐・油揚げ製造業
	インボイス制度の対応に付随して、熟練技術者の事業廃業等を懸念しています。これまでは、個人事業主や職人は定年が無いと頑張っていた人達の動向が、建設事業主にとって、下請け業者の確保難にならないか心配です。	建設業 一般電気工事業
	円安は落ち着いてきたものの、まだまだ値上げ傾向にあり、今後も厳しい状況が続くものと思われる。	卸売業 その他の身の回り品卸売業
	商品の仕入単価が高騰し、また、販売資材も高騰していることから収益を大きく圧迫している。人件費も上昇したことから、業積としては悪化の見込みとなる。	小売業 各種食品小売業
	現在は旅行支援により、個人旅行は増加しましたが、グループでの旅行はまだ戻ってきておりません。今後コロナウイルス感染症が5類に変わることで、グループ旅行の回復が見込まれる為、来期の見通しは明るく感じております。	サービス業 旅行業（旅行業者代理業を除く）

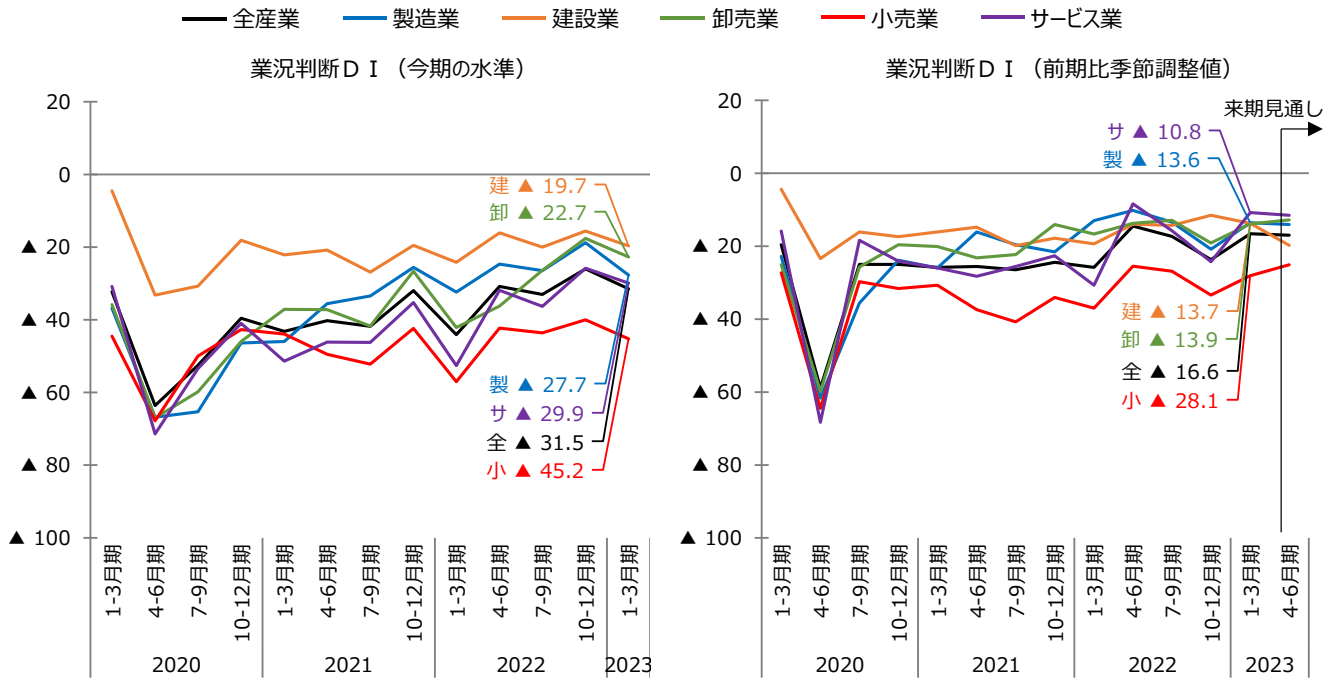
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第171回 中小企業景況調査（2023年1-3月期） 中国

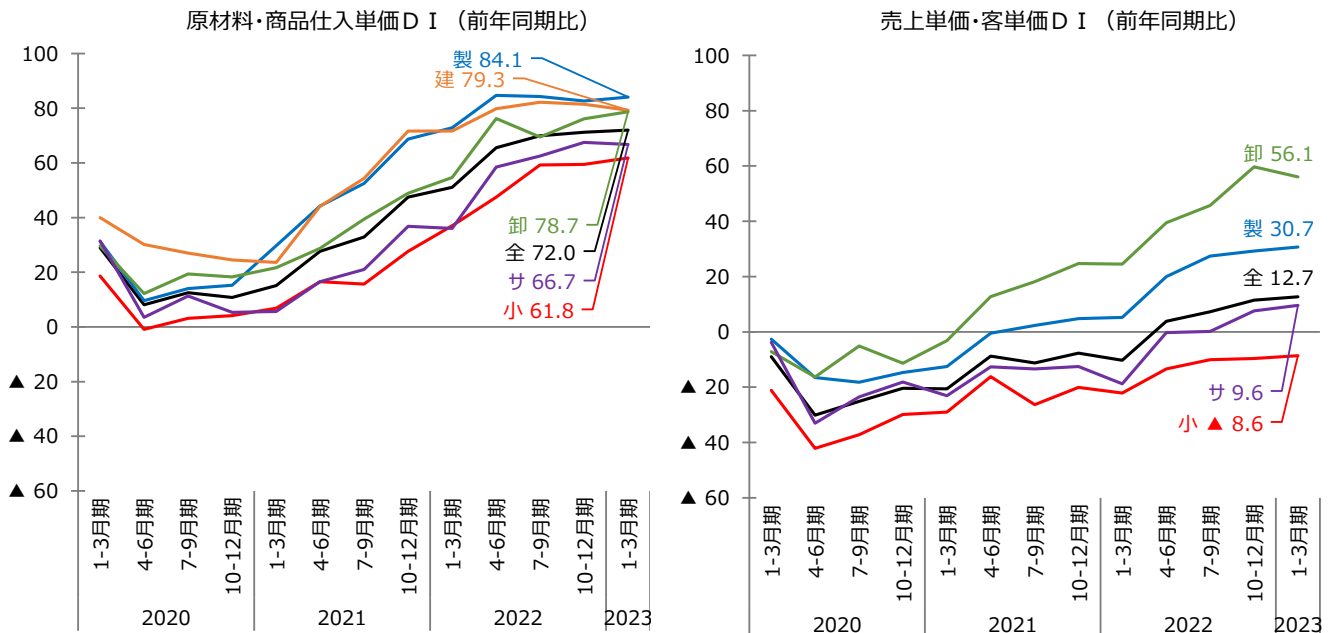
1. 業況感

中国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2022年10-12月期）より5.5ポイント減の▲31.5と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.8ポイント増の72.0と9期連続して上昇した。産業別にみると、卸売業、小売業、製造業で上昇し、建設業、サービス業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より1.2ポイント増の12.7と4期連続して上昇した。産業別にみると、サービス業、製造業、小売業で上昇し、卸売業で低下した。



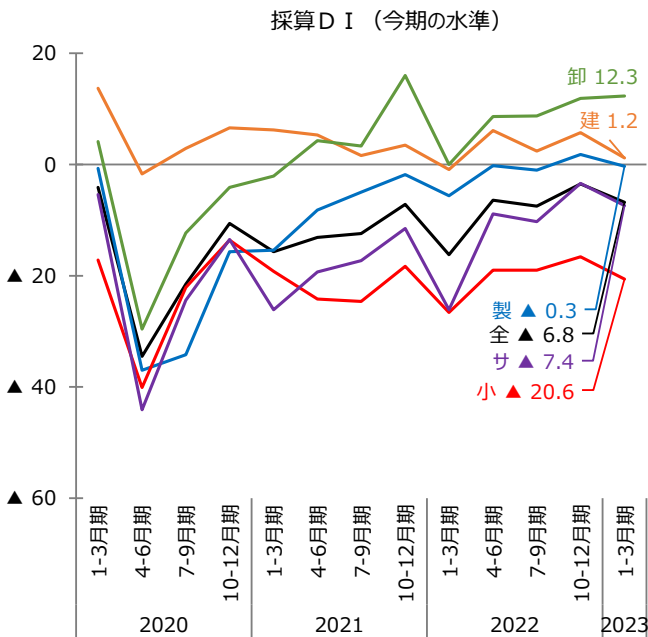
<調査概要> 調査時点は2023年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,840 有効回答企業数：17,980 有効回答率：95.4% うち、中国：1,673企業

第171回 中小企業景況調査（2023年1-3月期） 中国

3. 採算

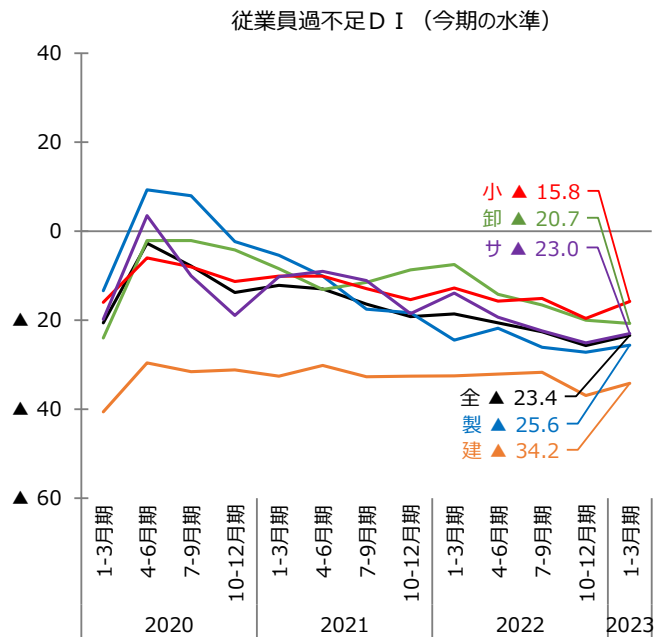
採算DIは、全産業で前期より3.3ポイント減の▲6.8と2期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、建設業、小売業、サービス業、製造業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より2.3ポイント増の▲23.4と4期ぶりに上昇した。産業別にみると、小売業、建設業、サービス業、製造業で上昇、卸売業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

4. 中国の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	売上は前年同期に比べて回復基調にあるが、原材料、光熱費の高騰がそれを上回っており、採算はマイナスとなっている。価格転嫁を進めているが、失注に繋がる恐れもある為、慎重に行なう必要がある。	製造業 オフセット印刷業(紙に対するもの)
	人件費以外の経費が増加しているように感じる。大工の高齢化が進み、若い大工さんを探してもなかなかいない現状では、高齢化により、仕事も早く終わらないので工期が困ることもある。	建設業 建築工事業(木造建築工事業を除く)
	売上は大きく伸びない中、販売管理費を一定程度抑制することで業績を維持している。	卸売業 その他の化学製品卸売業
	コロナ外出制限やあらゆる制限の解除で人の流れが多くなってきた状況ではありますが、資材や原料の度重なる値上げにより、実質利益が上がりにくい状態です。	小売業 菓子小売業(製造小売)
	昨年同期と比較すると、売上は上がっているが、客単価を上げたのが要因。しかし、諸物価の高騰による経費の逼迫が大きく影響し、安心できない。コロナも下降気味となり、各会食等が戻りつつあるが、決して心底喜べない。	サービス業 旅館, ホテル
見通し	原材料や電気、燃料を含めて資材の再値上げがあり、収益の悪化が感じられる。去年商品の改定を行なったが、今年にもう1度改定が必要となっている。その時に売上がどのように変化するか懸念している。	製造業 しょう油・食用アミノ酸製造業
	材料の調達は落ち着いてきているが、価格の上昇がまだ予想される。請負金額に反映させにくいのが悩み。受注に影響がでないよう企業努力を考えたい。	建設業 木造建築工事業
	取扱商品の価格改定により、売上単価は上昇しているが、出荷数が減り、売上は昨年並みだった。今後も生活防衛による需要の低下を懸念するが、コロナに対する生活の改善を期待している。	卸売業 酒類卸売業
	イベントの再開など、ウイズコロナに期待する一方で、仕入単価の上昇や物価高による消費者の生活防衛による買い控えも予測され、依然、下振れ要因が多く、楽観視できない。	小売業 茶類小売業
	売上に大きな変化は無いが、材料費及び光熱費が高騰しており、収益を悪化させている。従業員を募集するも、応募が少なく、顧客の確保にも影響が出始めている。コロナ収束でのイベント再開に期待する。	サービス業 美容業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

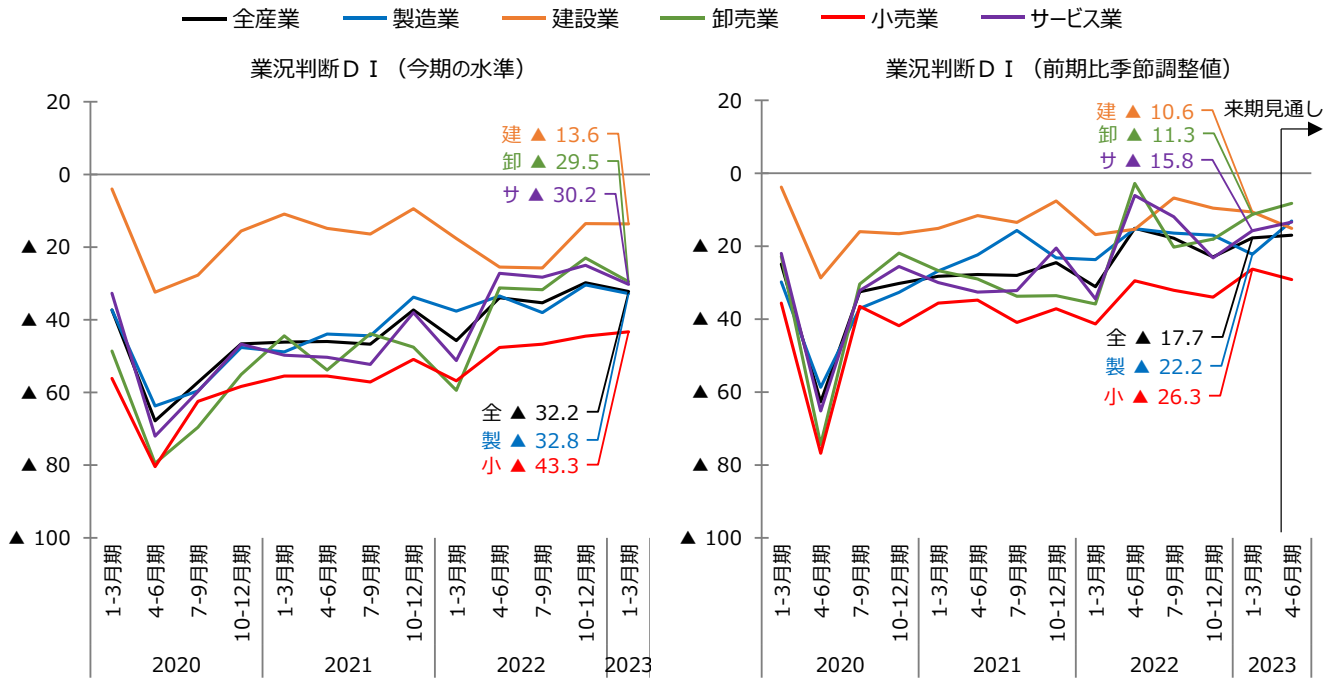
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第171回 中小企業景況調査（2023年1-3月期） 四国



1. 業況感

四国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2022年10-12月期）より2.4ポイント減の▲32.2と2期ぶりに低下した。産業別にみると、小売業で上昇し、卸売業、サービス業、製造業、建設業で低下した。

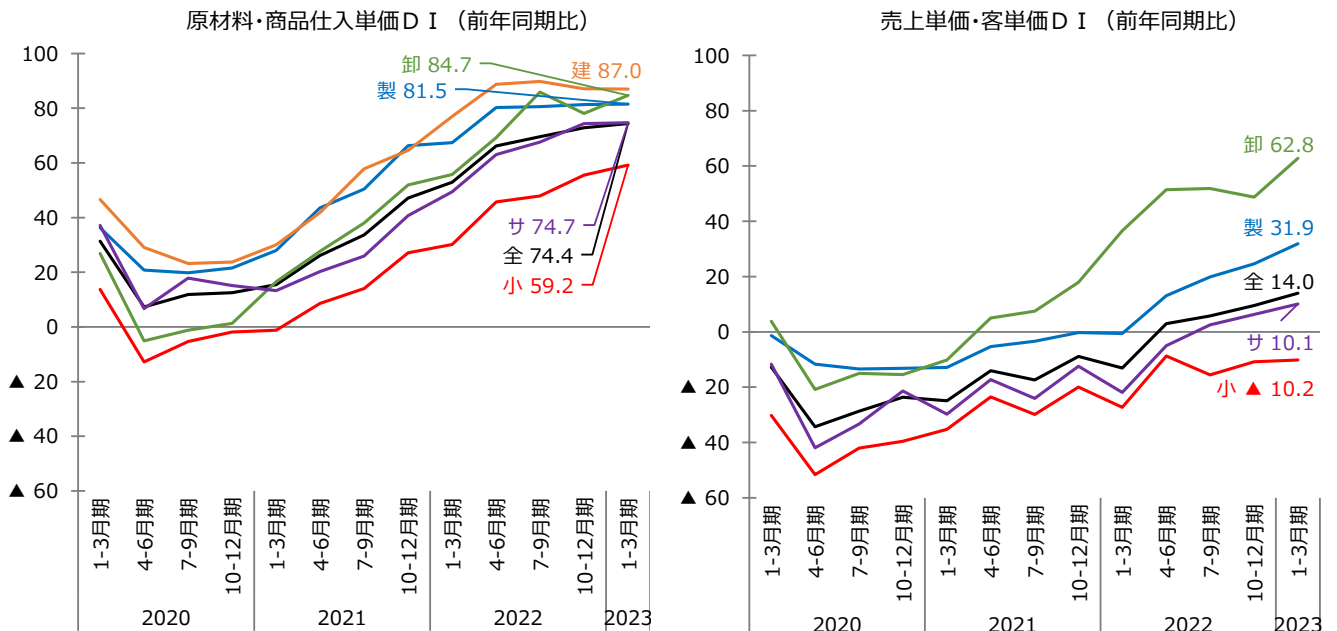


※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問

※前期（2022年10-12月期）と比べて「好転」「不変」「悪化」で質問

2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.5ポイント増の74.4と11期連続して上昇した。産業別にみると、卸売業、小売業、サービス業、製造業で上昇し、建設業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より4.5ポイント増の14.0と4期連続して上昇した。産業別にみると、4産業すべてで上昇した。



※前年同期（2022年1-3月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

※前年同期（2022年1-3月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

<調査概要> 調査時点は2023年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

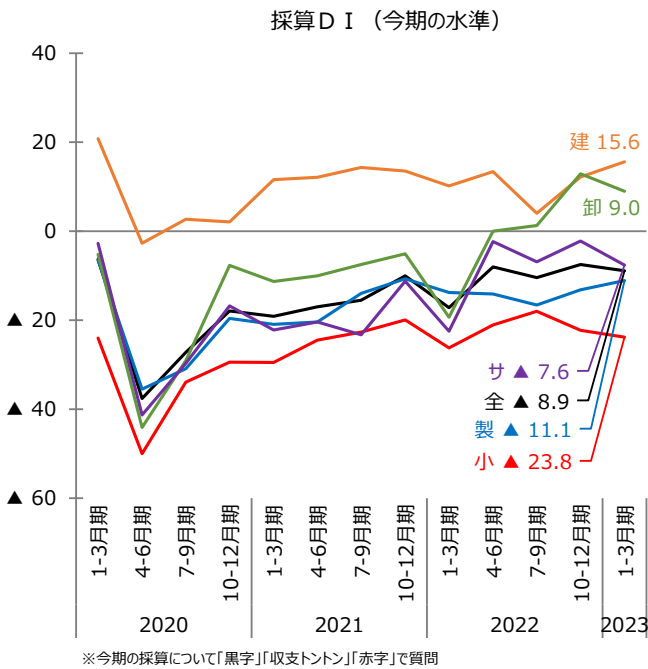
今期の調査対象企業数：18,840 有効回答企業数：17,980 有効回答率：95.4% うち、四国：1,271企業

第171回 中小企業景況調査（2023年1-3月期） 四国



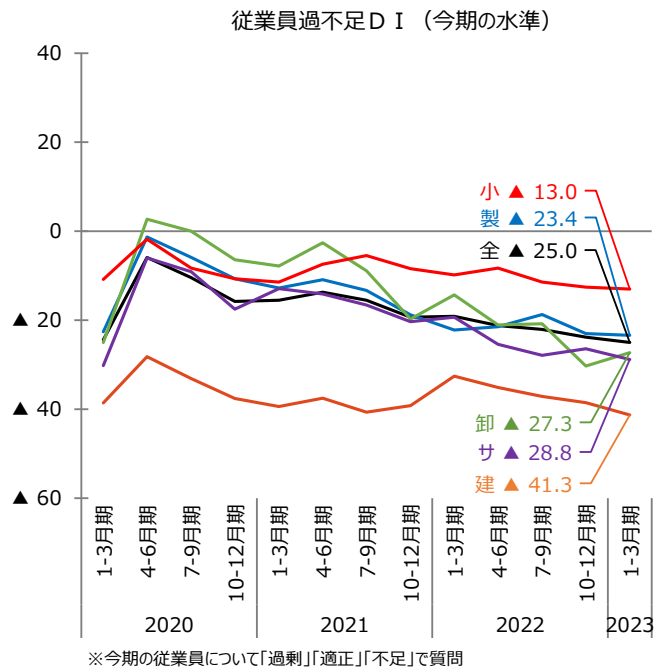
3. 採算

採算DIは、全産業で前期より1.4ポイント減の▲8.9と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業、製造業で上昇し、サービス業、卸売業、小売業で低下した。



4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.2ポイント減の▲25.0と4期連続で低下した。産業別にみると、卸売業で上昇、建設業、サービス業、小売業、製造業で低下した。



4. 四国の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	コロナ感染症は、次第に下火になりつつあるが、まだまだ需要は低迷気味である。原材料を含めすべてのもの、サービスが高騰して、経営を圧迫している。しかしながら、新規の引き合いは活発の為、回復に期待している。	製造業 袋物製造業 (ハンドバッグを除く)
	技術者不足により、未消化工事が増えているため、下請業社等外注費用が多くなり、利益及び売上が低下している傾向にある。	建設業 建築リフォーム 工事業
	全体的な経費増は、大変大きな問題点となってきた。従業員の確保のためには、給料のベースアップも近い将来には必須となることも考えると、更なる値上げが求められる。	卸売業 その他の食料・ 飲料卸売業
	物価上昇に歯止めがかからず、電気代など光熱費の上昇が激しく、家電製品の買い換えに影響が出ている。単価の安い商品しか売れなくなって販売単価が下がっている。	小売業 電気機械器具 小売業(中古 品を除く)
	客足はコロナ前に戻りつつあるが、仕入れ値が高騰しているため利益を圧迫している。また、物価高騰が顧客の家計にダメージを与えることによる外食控えも心配。アルバイトの学生が卒業することによる人材不足も問題。	サービス業 そば・うどん店
見通し	取引先への卸値を春から値上げできることにはなっているが、仕入れ値・電気代の高騰と鳥インフルエンザの影響が続いているため、再度値上げさせてもらえないか交渉予定。飲食店からの引き合いは増えている。	製造業 肉加工品製造 業
	現時点ではまだ引き合いがあるが、今年夏以降は、受注が停滞しそうである。金利の上昇や更なる材料の高騰により、消費者の買い控えが進みそうである。	建設業 一般土木建築 工事業
	建設資材の値上げ、ガソリン、電気代等の値上げ、人件費の上昇圧力等により、今後の収益の確保が課題である。	卸売業 その他の建築 材料卸売業
	販売価格に転嫁しにくい諸々の資材や経費が軒並み上昇してきており、今後は厳しい経営が予想される。また、求人をしてても若い人材が集まらず、慢性的な人手不足になっている。	小売業 ガソリンスタンド
	仕入価格が上昇し始めています。4月の料金改正も考えていますが、来年も値上げせざるを得ません。労働環境の改善の為に、値上げの金額を考えています。	サービス業 理容業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

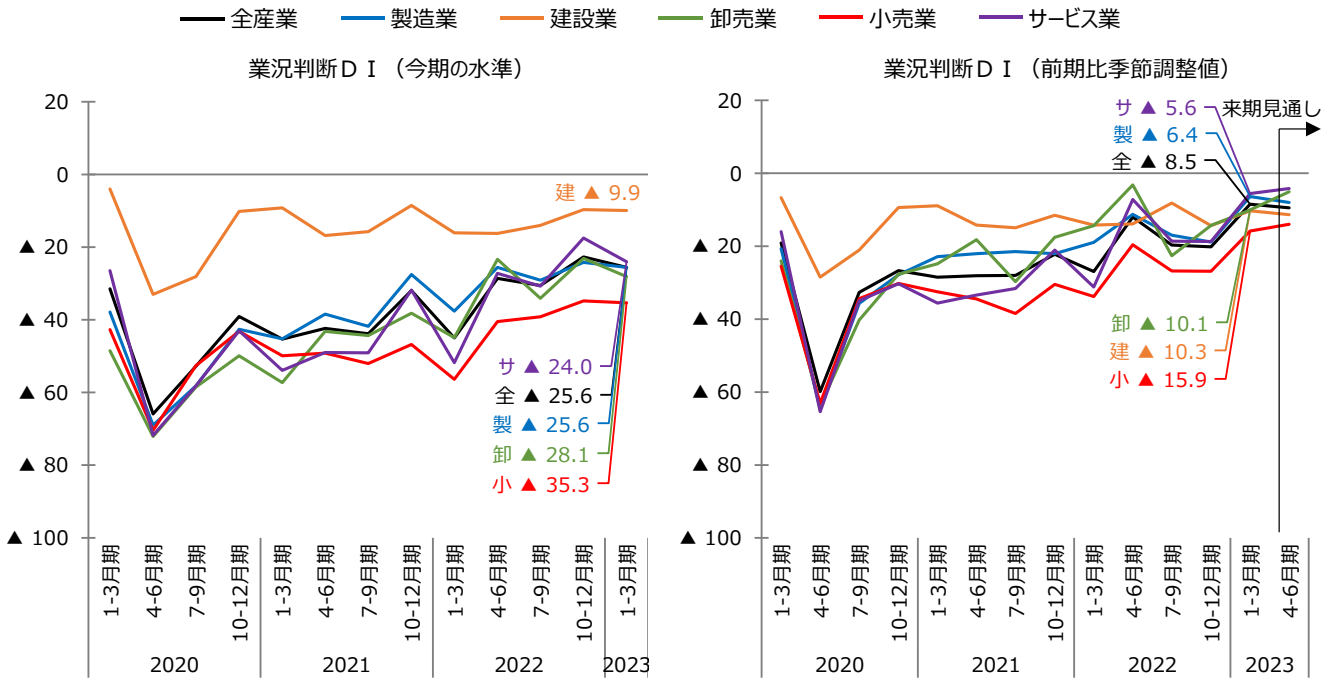
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第171回 中小企業景況調査（2023年1-3月期） 九州・沖縄



1. 業況感

九州・沖縄地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2022年10-12月期）より2.9ポイント減の▲25.6と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。

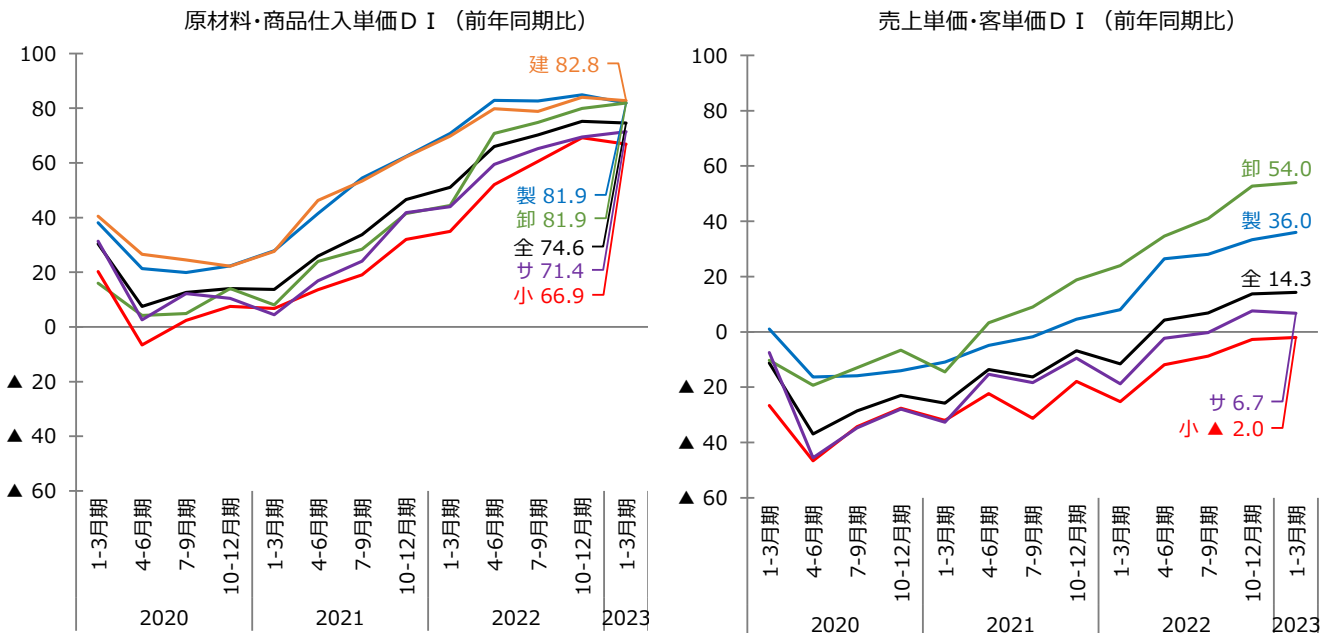


※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問

※前期（2022年10-12月期）と比べて「好転」「不变」「悪化」で質問

2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.6ポイント減の74.6と8期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業、サービス業で上昇し、製造業、小売業、建設業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.6ポイント増の14.3と4期連続して上昇した。産業別にみると、製造業、卸売業、小売業で上昇し、サービス業で低下した。



※前年同期（2022年1-3月期）と比べて「上昇」「不变」「低下」で質問

※前年同期（2022年1-3月期）と比べて「上昇」「不变」「低下」で質問

<調査概要> 調査時点は2023年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

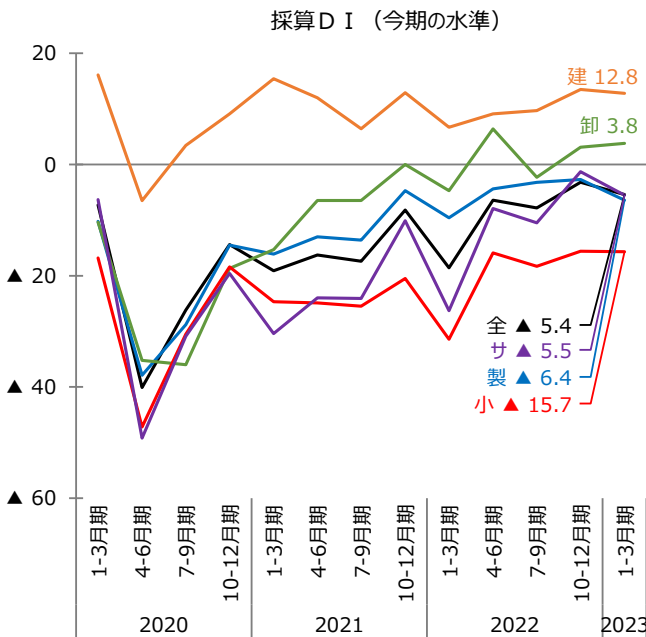
今期の調査対象企業数：18,840 有効回答企業数：17,980 有効回答率：95.4% うち、九州・沖縄：2,764企業

第171回 中小企業景況調査（2023年1-3月期） 九州・沖縄



3. 採算

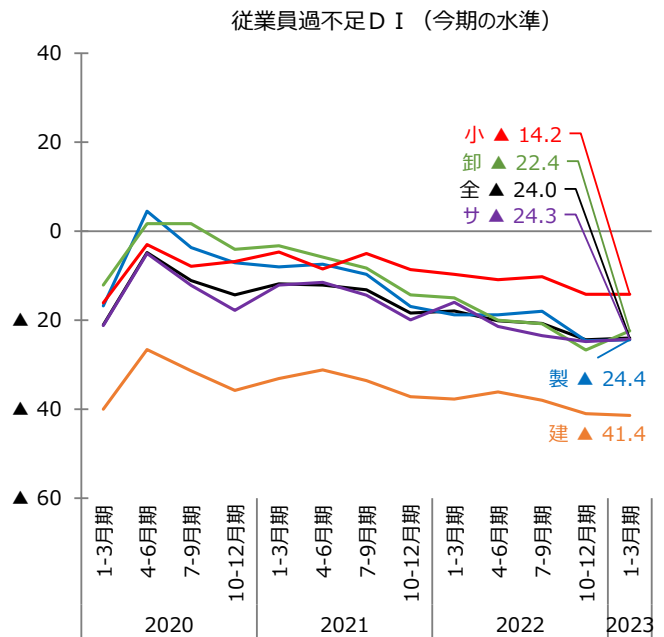
採算DIは、全産業で前期より2.2ポイント減の▲5.4と2期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、サービス業、製造業、建設業、小売業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.4ポイント増の▲24.0と4期ぶり上昇。産業別は、卸売業、サービス業、製造業で上昇、小売業で横ばい、建設業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

4. 九州・沖縄の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	生活必需品の幅広い値上げで、消費者の節約意識が強く感じられます。耐久消費財の購入を控える傾向が見られるようです。当社の家具等は、単価の安い物か、購入を先延ばしにしているようです。	製造業 木製家具製造業（漆塗りを除く）
	受注は絶え間なくあるが、相変わらず人材不足が深刻。特に20代～30代前半は全くおらず、業界が継続していくのか不安な気持ちがある。	建設業 さく井工事業
	観光客も徐々に増え始めている為、前期と比較して売上も回復傾向にある。また、相次ぐ商品の値上げに伴い、販売単価も上昇している為、売上は好転している。	卸売業 米麦卸売業
	仕入れ価格の上昇が止まらない。販売競争の激化等により、値上げ分の価格転換もなかなか進まず厳しい状況が続いている。さらに、慢性的な人手不足も悩みの種である。	小売業 各種食料品小売業
	経験豊富とはいかないまでも、中途採用者が順調に増えており、今後の受注増が見込まれる。ただ、熟練の中途採用が厳しい状況は変わっていない。中途採用者の教育で費用が掛かってしまうので、利益増は小幅である。	サービス業 受託開発ソフトウェア業
見通し	コロナの影響がほとんど無くなってきて、正常な経済活動が行われているように感じる。外国の業者も国内へ来られるようになり、より密な取引に繋がるのではないかと期待している。	製造業 清酒製造業
	材料費・電力料他の値上げに伴い、やっと受注価格も上がってきて、少しずつ利益に繋がってきました。今後、残業時間の規制、従業員さんの貸上げが心配です。	建設業 鉄骨工事業
	国内外の景気低迷、IT化に伴うペーパーレスの影響で、古紙廃注が減少し、厳しい状況が続くと思われる。並びに、販売先メーカーの状況悪化に伴い、数量・単価の大振れが上半期は続くと思われる。	卸売業 紙卸売業
	コロナへの考え方が変化し、消費者の買上げにも少し変化はあるように思うが、生活必需品の値上げにより、これから影響が出てくると思われる。これからの販売に、「ひと手間」加えて、より良い商品を少しでも安く売る必要がある。	小売業 婦人服小売業
	新型コロナも落ち着き、第5類に引き下げられるとのことで、今後は、夜の宴会等も増えて来ると思われる。材料費の高騰・スタッフ確保が目先の課題。	サービス業 食堂、レストラン（専門料理店を除く）

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。